

# オリジナル・ストーリー

「『結』によるプロジェクト参画が築く“東北ルネサンス”」事業

岩手県陸前高田市、釜石市、宮城県南三陸町

一般社団法人 生命環境産業振興協議会

かさ上げ終了まで今後数年かかり、その後まちづくりが行われていく、津波被害を受けた東北沿岸部

震災前より東北に根付く「結」に基づいた「絆」と「智恵」や豊かな自然により、来訪者の心と体の再生を助けるまち

ものづくりを楽しむヒト

地域の価値観や伝統的な文化を大切にするヒト

新たに起業家になれたり事業開発を行えるヒト

海と畑の六次化のマチ

持続可能な事業をつくるマチ

誰もが仕事や商品をつくりだせるマチ

## 復興と再生

南三陸町

陸前高田市

釜石市

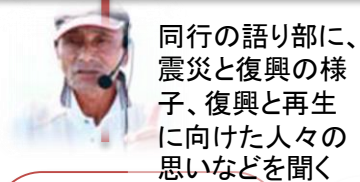
来訪者と地元の人々の心と体の再生

好循環

まちの復興

来訪者による交流と協働で復興が進むまち

全ての旅程を通じ、この地に震災前から根付く「結」に基づいた「絆」と「智恵」で、復興を支えてきた力強く魅力的な**達人**たちとのプロジェクト通した交流や協働により、来訪者の心と体も再生する



同行の語り部に、震災と復興の様子、復興と再生に向けた人々の思いなどを聞く

復興に向けて奮闘する人々に、心が軽くなる生き方のヒントをもらう



仮設住宅、長洞元気村のおばあちゃんと語りながら、美味しいものを食べ、心と体を元気に

癒しの宿泊施設で五感を休め、仲間と語り、心と体を再生する

このツアーで知り合った人にまた会いにきてもらう、または移住してもらう

### 観光・学び (震災遺構)

- 奇跡の一本松
- 南三陸町防災対策庁舎
- 鶴住居地区防災センター など

### 体験・対話(プロジェクト、仕事など)

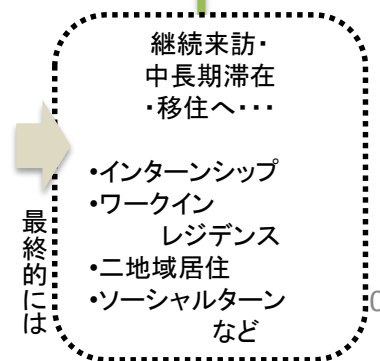
- 甲子柿を守ろう！ジャムづくり体験
- 養殖発祥の地！南三陸で大迫力の鮭のエサやり見学＆移住社員のお話
- 東北の甘酸っぱいイチゴを召し上がれ！いちご狩り＆移住社員のお話
- ピザ窯で「MYピザづくり」＆震災から5年～被災地の今をうかがう など

### 食・土産

- 南三陸復興市
- 長洞元気村(わかめしゃぶしゃぶ)
- 創作農家・レストラン「こすもす」(洋食) など

### 宿泊

- 箱根山テラス
- いりやど
- 宝来館 など



# 経験ストーリー

## 『震災から5年\_\_東北沿岸部の今を、感じる、味わう、出会うツアー』

仙台発、チャーターバスで行く、岩手県陸前高田市、宮城県南三陸町、岩手県釜石市周遊ツアー(3泊4日、最大催行人数40名)(集合9時、解散15時)

東日本大震災からまもなく5年。津波で大きな被害を受けた、東北沿岸部。復興にはまだまだ時間がかかるけれど、希望を持って奮闘を続ける人たちがいます。元来、「ゆいっこ」という、お互いに助け合う精神が根付いているこの地域。「お茶っこすっぺし」と言って、気軽に集い合い、人と人との関係性を大切にしているこの地域。もちろん沿岸部なので、新鮮な魚介類が味わえることは言うまでもありません。震災から5年を迎える東北沿岸部～南三陸町、陸前高田市、釜石市～に、復興の今を見に、復興に向けてがんばる人たちに会いに、旬の東北を味わいに出かけませんか。

### 〔あるツアー参加者の背景〕



時は春。東京。

この季節が嫌いだ。生暖かく優しい風が吹き、桜がほころび、何かが始まる躍動感や、生命力にあふれている。

でも、私の周りだけ何一つ変わらない。また同じ仕事、また同じ1日。残業の日々。両親と一緒に暮らし、お金に困ることもない。友達もいる。仕事にもやりがいを感じている。でも…。

土曜日なのにいつも早く起きてしまう。家にいるのが嫌なので、午後はテーブルコーディネート講座の予定が入っていることにほっとする。朝食を食べながら、スマホでフェイスブックをチェックする。1年前、「青山自由学校」の「自分のお店をつくる学」講座で知り合った服部さんのタイムラインに、「東北ツアー、一緒に行く人ー！」の書き込み。彼女も私と同じような悩みを持ち、お互いに意気投合。今では唯一無二の親友だ。

「行く、行くー。」とコメントしたのが始まり。そして今、仙台駅に到着した。

◆ 1日目(南三陸町)

震災遺構見学

防災対策庁舎、南三陸町立戸倉小学校、高野会館など、語り部の解説を受けながら見学します。



ここ、テレビで女の子が最後までがんばっていた場所だ……。私よりぜんぜん若い子。スピーカーで避難を呼び掛けていた声がよみがえる。あの子、自分より人のことを考えて……。どんな思いで……。



昼食:名物「南三陸キラキラ丼」

いくら、鮭、ウニなど、四季の食材できらめく、名物「南三陸キラキラ丼」を味わいます。



元気な南三陸見学★養殖発祥の地、南三陸で、大迫力の鮭のエサやり見学

行場商店にて、養殖加工場の被災から再建までの状況をうかがった後、大迫力の鮭のエサやりを見学します。鮭のエサやりはこの時期にしか見ることはできません。また半年間のインターンシップを経て、高橋社長の人柄にひかれ、移住をし、社員となった新潟出身の小出悟さんに、南三陸の魅力をお聞きします。



「人生で今が一番幸せです」って、こんなに大変で、まだ町も全然復興されてない状況で。どうしてそんな風に言えるの？この人たちにもっと話を聞いてみたい。この人たちのために、何か私でもできることがないだろうか。



元気な南三陸見学・体験★いちご狩り

復興に向けて奮闘する小野花匠園を訪問。南三陸町で、有機栽培のトマトの栽培、販売を行っていた小野さんは、震災後、雇用をつくろうと、苺や菊の栽培や、フラワーアレンジメント、苺、トマト狩りなどの体験も始めました。小野さんにお話をうかがうと共に、旬のいちごを味わいます。小野花匠園でもインターンシップ体験後、移住した方がいます。「今が、今まで生きてきた中で一番幸せ」と語る、東京から移住した中島綾子さんにお話をうかがいます。



色々なことを考えさせられる一日だったな。そういえば、中島さん(東京から小野花匠園へ移住転職した社員)が、お試しとして移住前に半年のインターンをしたと言っていたな。南三陸町にそういう制度があるんだと。両親が元気なうちにインターンを試してみてもいいかもしれないな。



お土産「南三陸さんさん商店街」

被災店主が手を取り合って奮闘する南三陸さんさん商店街にてを散策。試食やお土産の購入など、お楽しみください。

宿泊「南三陸まなびの里いりやど」

「南三陸まなびの里いりやど」に宿泊。料理長が腕を振るう南三陸の海産物を味わいます。館内展示などから、震災から現在までの状況を知ることができます。

震災遺構見学

奇跡の一本松、陸前高田市立気仙中学校、道の駅タピック45など、語り部の解説を受けながら見学します。

はじめて訪れた陸前高田市。ベルトコンベアで囲まれたまち。工事の騒音。ようやくかさ上げが始まるのがあと3年後ですって？地震から5年も経っているんだよね？なんでこんなに復興していないの？



昼食：名物「南三陸キラキラ丼」

東北沿岸部と言えばやっぱり海鮮。被災店主が手を取り合って奮闘する未来商店街にてお寿司を味わいます。



元気な陸前高田見学★八木澤商店

200年以上続く老舗の味噌醤油会社「八木澤商店」を訪問。強い信念と行動力で、社員を一人も解雇することなく再建を果たした、「カンブリア宮殿」で私たちに勇気をくれた9代目社長の河野通洋さんにお話をうかがいます。味噌を使ったお菓子の試食タイムも。



こんなに大変な状況なのに、河野さんは希望を持っている。私が元気のない顔をしていたら、背中をたたき、「これ美味しいから食べてみて！」と笑顔で言ってくる。



元気な陸前高田見学・体験★椿のみち

製油工房「椿のみち」を訪問。一つ一つ手作業で殻を割き、目視でカビや汚れを取り除くという丁寧な製法で、とても上質な食用椿油をつくっている工房です。ここでは、搾りたての椿油に、八木澤商店さんの醤油を使ったオリジナルドレッシングづくりをお楽しみください。

手絞りの油かぁ。ていねいなものづくりっていいな。友だちが買いたくなるようなドレッシングだったら、どんな中身でどんなパッケージにすればいいかな。



夕食「フライパン」

震災後東京からUターンした若者、熊谷克郎さんが営む創作洋食居酒屋で夕食です。潮風を受けて育ったとても美味しい米崎リンゴからつくられた珍しい「りんごビール」が味わえます。他にも、元吉本のお笑い芸人という特異な経歴を持ちながら、実は有能なビジネスマンとして、訪問リハビリ事業を展開するロッツ株式会社の富山泰庸さんなど、復興に向けて頑張る人をゲストにお呼びしてお話をうかがいます。



ノーマライゼーションのいないまち、障がい者も、高齢者も誰もが働くことのまちをつくらうとしているのか。初めて聞いた言葉。そもそも働くことさえできない人がいたんだな……。私の悩みって、なんてちっぽけだったんだろう。



宿泊「南三陸まなびの里いりやど」

陸前高田のまちを一望することのできる広大なテラス、気仙杉がふんだんに使われた客室、ホールに設置された暖炉など、訪問客の心を癒す宿に宿泊します。運が良ければ、自らを“代表取締役役員”と名乗るユニークな長谷川順一さんに、テラスであぶりものを振舞ってもらえるかも。



◆ 3～4日目(釜石市)

震災遺構見学・名所観光

鵜住居地区防災センター、橋野高炉跡など、語り部の解説を受けながら見学します。



昼食:名物「釜石ラーメン」

製鉄所の人々が短い昼休みにさっと食べられるように」という背景から考案された「釜石ラーメン」を味わいます。



元気な釜石見学・体験★特産品「甲子柿」ジャムづくり

渋柿の一種である小枝柿を、「くん煙」により脱渋した、トマトのようなめずらしい柿、それが「甲子柿」です。だんだんと需要がなくなってきた「甲子柿」をなんとか保存したいと、市、生産組合、地域活性化協議会、応援団が立ち上がりました。「甲子柿」を加工商品化し、販売していこうという動きを進めています。第一弾は、「甲子柿ドレッシング」、つづいてジャムが開発できないかと考えています。ツアー参加者のみなさまには、とても甘くグミのような触感の甲子柿でジャム作りを体験していただきます。加工商品開発に当たってのアイデアも募集しています。



宿泊「宝来館」

白砂青松100選にも選ばれた、根浜海岸の目の前に佇む宝来館に宿泊します。「宝来館」の女将は、自身も裏山に逃げたことで九死に一緒を得たため、即座に逃げることで津波対策用避難階段の設置を計画しています。さらにこれを通常時には、ひな壇観覧席として活用できるものにする事で、地域活性化も図ろうとしています。女将の話聞きながら、美味しい海の幸を味わうことができます。



翌日(～15時まで)

元気な釜石見学・体験★こすもす公園でピザづくり

地産地消レストランを併設する「こすもす公園」を訪問。震災前より釜石市でレストランを経営していた藤井さん夫妻。震災で子どもの遊び場が不足していることを憂い、休閑農地を開放し、手作りで「こすもす公園」を造りあげました。ここにはピザ窯、作業台などがあり、様々な体験をすることができます。レストラン「こすもす」の素朴な料理を味わいながら、藤井さん夫婦のお話をうかがいます。またのピザ窯でのピザづくりも体験します。



〔ある参加者の心の動き〕

伝統を守るために、若者の意見を聞いたり、私たちのような旅行者から意見を聞いたり、新しい要素を取り入れていく。こういう考え方っていいな。この人たちとちょっと話をしてみたい。この人たちのために自分が役に立てるといいな。

この柿、触感がグミみたい。グミって若い子が好きだから、「グミ柿」みたいな売り出し方をしたら売れるんじゃないかな？私でもこの人たちのために、何か役に立つことができるかもしれない。

3か月に1回釜石に通う「甲子柿保護プロジェクト」か……。自分も登録してみようかな。服部さんにも声をかけてみよう。



昨日の甲子柿もそうだったけれど、ここでも地域の人や、若者もお年寄りもみんな、この公園を守ろうとしている。みんな自分のことはこの次で、どうしたら自分のすむ町を守れるかということを考えている。一人で楽しむのではなく、人に関わっていくことを楽しんでいる。確かに、楽しい。こうやっておせっかいに人と関わって、受け入れてもらえる。一緒に笑い合える。

一人のお休みが嫌だからと、土日に無理に予定を入れている私ってなんなんだろう……。

私もこの人たちのようになりたい。東京に帰ったら、また悩むことがあるかもしれない。そうしたらまたここに来よう。河野さんに会いに。なでしこさんに会いに。藤井さん(甲子柿生産者)に会いに……。



# ペルソナについて



## 田中里美さんストーリー

正社員として、東京の中小企業、広報部に勤務している田中さん。両親名義の都内のマンションに、両親と共に暮らしている独身女性である。

仕事はやりがいがあるが、連日の残業、独り身という現状に、漠然とした不安を抱いている。合わせて、年老いた両親が今はまだ元気だが、今後介護が必要になった時に、自分ひとりで、仕事を続けながら介護できるだろうか、という悩みもある。

そんな不安感を打ち消すように、土日は、趣味の講座(今はテーブルコーディネート)に通ったり、時にはボランティア活動を行ったりと、アクティブに活動している。立教大学英米文学科在学中に短期ボランティアツアーに参加したこともあり、社会的な事に対する興味、関心が高い。

田中さんは、ある日、フェイスブックの友達の書き込みで、「陸前高田の被災事業者のアソート商品セットのブランドをみんなで考えよう！」というツアーがあることを知る。

未だに大変な思いをしている被災地のことを知り、彼らのために自分のスキルが役に立つかもしれないと考えた田中さんはこのツアーに参加。そして、被災地で1から頑張っている人々の思いに触れ、3か月に1度、定期的に釜石に通うプロジェクト支援型ツアーに登録することに。

そして、広報畑で培ったノウハウを生かし、甲子柿のPR支援を始める。

このツアーをきっかけとして、自分よりももっと先の見えない大変な中でがんばっている人達がいることを知り、将来に対する不安を感じながら生活するのではなく、今を精一杯楽しんで生きていこうと思えるようになった田中さんは、不安感を打ち消すためにではなく、素直な心の声に従って、よりアクティブに、人生を楽しむことができるようになった。



田中里美(たなかさとみ)

40歳

東京生まれの東京育ち(文京区)

中小企業正社員(勤務10年目)

両親名義のマンションに子どもの頃より暮らしている

年収500万円

独身、一人っ子

よく旅と一緒にいく女友達が数名

- 美術館めぐりと映画鑑賞が趣味。
- 英語が堪能、フランス語も少し話することができる
- ファッションはシンプルなダーク系カラーのものが好きだが、アクセサリーにこだわりがある。
- 人との関係性をとても大切に丁寧な仕事ぶり。そのため一つの仕事に時間がかかりすぎることもある。
- 日本酒が好きで蔵めぐりは最近の最も好きな趣味の一つである。
- 社会的な事に関心が高い。新聞は全ての記事を読むことはないが、毎日目を通してしている。
- フェイスブックなどSNSを活用。積極的に情報発信するほうではないが、海外の友人とのコミュニケーションにも便利なため、活用している。
- 友人はそれほど多くないが、海外も含めて心を許せる友がいる。時々一緒に旅行をするのが楽しみ。
- 自分の信念をしっかりと持っている。そのため時々、きつい性格だと思われることもある。
- お酒の席では雄弁になるとよく言われる。
- 今の生き方や働き方に、漠然とした不安を抱えている。このまま独身なのか、親の介護はどうなるのか、など。
- 土日はアクティブ。友達とのランチ会、講座受講、時々ボランティアへの参加など。